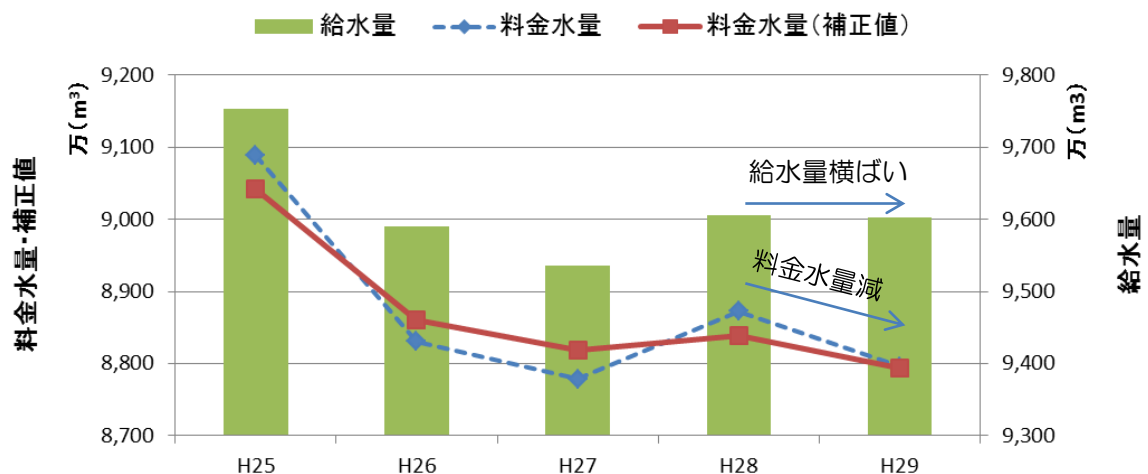


## 補足説明資料

### 料金水量（有収水量）の経年分析

- 料金水量（有収水量の99.9%以上を構成）の検針期間日数によるばらつきを補正し、有収率（対給水量比）を算出する。
- 補正方法は検針期間日数を10,950日に割り戻している。
- 検針期間日数の基準日数：奇数・偶数月の検針各15ブロックに365日を掛けたもの。  
( $2 \times 15 \times 365 = 10,950$ 日)

	給水量 ( $m^3$ )	料金水量 ( $m^3$ )	検針期間 日数	基準日数	料金水量補正值 ( $m^3$ )	有収率 (%)	有収率補正值 (%)
H25	97,532,730	90,881,887	11,005	10,950	90,427,684	93.19	92.73
H26	95,904,650	88,304,111	10,913	10,950	88,603,502	92.08	92.40
H27	95,357,570	87,786,053	10,900	10,950	88,188,741	92.07	92.49
H28	96,063,604	88,727,399	10,993	10,950	88,380,335	92.37	92.01
H29	96,028,669	87,954,169	10,953	10,950	87,933,691	91.59	91.57



- 料金水量は経年的に緩やかな減少傾向。
- 29年度給水量が28年度と同水準の中、料金水量（補正值）が減少している。  
⇒無効水量＝給水量－有効水量であるので、29年度は28年度に比べ無効水量（不明水量）が増加している。  
⇒有収率（補正值）が低下傾向。